

主催：NPO法人まちづくり学校



昭和36年の洪水の写真を見ながら店主の経験談を聞く（食堂六太郎）



## 子どもたちと中ノ口川を巡る 大風のまち白根と水との闘い

豊かな農産物と果樹王国としても名高い南区。肥沃な土壌を運んだ中ノ口川が、かつて洪水を繰り返す暴れ川だった記憶は薄れがちである。「水の記憶新聞づくり」では、小学生が「しろね大風タウンガイド」と中ノ口川の歴史を紐解くまちあるきを行い、白根大風合戦の舞台として親しまれている姿も見つめ直しながら自分の気づきを新聞として書き上げた。

白根商店街や大風合戦の会場となる堤防周辺を回るコースの途中、子どもたちが特に引きつけられたのは、食堂六太郎で聞いた店主とガイドによる中ノ口川の洪水の経験談だ。押し寄せる濁流を米俵で防いだ史実は衝撃的で、モノクロの記録写真から「水の音が聞こえてきそう…」という声が聞かれた。米俵のレプリカを担ぐ体験も行い、新聞づくりではそれぞれが感じ取ったまちの姿を、編集のプロのアドバイスを受けながら文章や絵で表現した。

「楽しく学ぶことが気持ちよかった」

「白根にまた来たい」という感想が多かった。

この企画は、まちづくりの担い手育成や協働の場づくり・運営などに携わる「NPO法人まちづくり学校」が、小学生を対象に毎年開催している「まちたんけん」をベースにしている。子どもたちにまちを知ってもらい、もっと好きになってほしいとの願いで、地元ガイドと計画から一緒にスタート。テーマを絞ったのは初の試みであったが、地形や文化など伝え方を考え、興味を引き出すミッションやカードを用いた工夫は、子どもの観察力や思考力を高めるだけでなく、ガイドスキルアップにもつながった。今後も子どもたちが自分でまちを探求し、魅力を発信する面白さを体験できる企画を手がけていきたい（文：横尾）

- 5月17日(木)～8月6日(月) しろね大風タウンガイドと打ち合わせ・準備
- 6月13日(水) みずつつちサポーターズと一緒に下見まちあるき（白根商店街・中ノ口川堤防付近）
- 8月7日(火) 水の記憶新聞づくり開催（割烹金長・白根商店街・中ノ口川堤防付近）